

平成22年度 第三学期終業式 校長の話

平成23年3月22日（火）

みなさん、こんにちは。

三学期は、1月26日の新燃岳の噴火以来、不安な日々が続いています。また、M9、震度7という日本の観測史上最大の東北・関東大震災が3月11日に発生し、多くの方々が被災され、未だに避難もされています。また、原子力発電所の事故による放射能も心配です。人生、いつ、どんなことが起きるか分からないということをみなさんも実感していることと思います。その中であって、あつという間の3か月でしたが、しっかりとこの1年間に締めくくることができましたか。また、2・3学年への準備、心構えができてきていますか。

3月1日の秀峰一期生の卒業式の式辞で、私が卒業生に話したことを思い出してください。三つのことを話しました。

「一期一会」、「啐啄同時」、「切磋琢磨」についてでした。

これらを1・2年生の皆さん向けに、端的に言えば、

- 一 秀峰での出会いを大切にする（仲間、先生など）
- 二 チャンスを生かす（今という時を大切にして、変わるべき時を逃さない）
- 三 自らを磨き続ける（仲間同士、お互いに励まし合い、向上していく）

ということになります。本校においても、これらのことを大切にして、充実した高校生活を送ってほしいと思っています。みなさんは、心掛けていますか。

2月に、生徒会役員のみなさんとの昼食会を校長室で開きました。今村生徒会長をはじめとする9名の役員と、これからの生徒会活動などについて話し合うという有意義な時間を過ごすことができました。そのときに改めて確信したことがあります。それは「いかに秀峰生が素晴らしいか。」ということです。役員のみなさんは、在校生全員のこと、学校のことなどを考えながら、意欲に満ちていました。頼もしくも感じ、今後も学習・風紀・交通・美化など各種委員会活動やボランティア活動をさらに活発化してほしいとお願いしました。

この1年間も全校生徒のみなさんに、「よさを発見し、大いに伸ばしてほしい。」「無限の可能性を秘めている。」ということを訴えてきたつもりです。このことを実現していく上でも、先ほど話した三つのことを心掛けてほしいものです。

4月には、高原高校との統合により、新たに「農業科」と「福祉科」が加わります。18日に、新1年生の合格発表があり、241名が合格しました。「秀峰ブランド」を確立しつつある、新2・3年生が、いろいろな面で、新1年生の模範となり、これまで以上に秀峰の充実・発展に努めるとともに、自らが成長していくように頑張っていくことを期待しています。

そのためにも、まず、みなさんが春休みを有意義に過ごし、新学年を決意新たに迎えてください。新学期を楽しみにしています。